

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100335	
法人名	有限会社 ルーク	
事業所名	グループホームソフトハンド茨島	
所在地	秋田県秋田市茨島4丁目1番6号	
自己評価作成日	平成28年1月16日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会	
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1	
訪問調査日	平成28年2月5日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは生活保護受給者も利用できる市役所指定を受けています。「誰でも利用できることと、安心できるサービス提供」ができればと考えています。同法人の経営するソフトハンド勝平、ソフトハンド浜田との連携を密にし、より良いサービスの向上を目指しております。余暇活動では土地を活かした園芸交流を行っています。また、外出レクやその他の交流行事を含め、各行事を月2回以上行う方針でこれからも多く企画していく予定です。また、ホーム内は家庭的でアットホームな環境が売りで、馴染みやすく穏やかに過ごしやすい空間を提供できていると思います。個人に合うサービス提供が出来る様スタッフ全員で日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年11月に管理者と計画作成担当者の兼務業務を解き、業務を軽減し、新たに管理者を設け、利用者に余裕を持って接することのできるように工夫をされる等、利用者がその人らしく過ごしていただけるように、安らぎを大切に、ふれあい、地域に根差した事業所として「目指せ！街角福祉」を企業理念に取り組みされている事業所です。随所に職員のアイデアによる工夫が観られ、機能維持に取り組み、安全性に配慮し、生活意欲に繋がるように支援されております。また、個々の生活スタイルを大切にされ、ペースを崩さないように取り組まれている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携を含んだ事業所理念を各事業所で周知し職員全員が言えるように指導している。共有し実践へ繋げることができるように会議等で確認するようにしている。	「目指せ！街角福祉」を企業理念に掲げ、その人らしく、安らぎ、ふれあいのある生活が送れるように、職員間で情報を共有し、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流を密にするため、町内会への行事に参加をしたり、地域にある他サービスを利用しながら、利用者様が気軽に日常関わりあえるようにしている。 ・理容店、スーパーなどの利用。 ・地域住民参加の行事。 ・町内会への出席など。	事業所内行事への招待、地域行事への参加、散歩時の挨拶、幼稚園児との交流等々、事業所が地域の一員として、地域と関わりを持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ご家族には家庭で外出する場合など、家族団欒の邪魔にならないよう事前にアドバイスをさせて頂くことや、地域の方々に対し運営推進委員会を利用し、介護施設の勉強会をしたり、相談のあったケースに対しお役に立てる情報を提案等させて頂いたり、出来る限り専門分野で貢献できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会では利用者様の日常生活がより良いものとなる様に事業報告の内容にアドバイスを頂いたり、勉強会を開いたり、家族や地域の方々が共に考えサービスに対して理解して頂けるように取り組んでいる。また、利用者家族からはアンケートを通じ意見を汲み取るようにしている。	参加者からのアドバイスや意見を活かし、改善に向けた取り組みをされています。また、取り組み結果を次回の会議で報告もされています。	運営推進会議録の記入方法について、後日、誰が見ても一目瞭然となるよう工夫される事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃からの報告の他に、気軽に相談しアドバイスを頂いたり、市町村と共に地域包括支援センターとの連携も出来る限りしている。また、グループホーム連絡会など、市役所職員を招いて講義をして頂いたり協力して頂いている	困難事例や申請手続き、相談、生活保護受給者の状況報告や情報交換等で、窓口に出向くことも多く、連携が取られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアルの整備をし、新任研修でも全職員にその意義を理解出来る様に伝えていくと共に、年間スケジュールにより施設内研修を行って身体拘束廃止ケアに取り組んでいる。	事業所内研修の他に都度、利用者状況を観ながら、話し合いを行い、身体拘束に繋がらないように取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束についてマニュアルの整備をし、年間スケジュールにより施設内研修を行って虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は行政書士と連携し、必要性のある利用者様やご家族に対しパンフレットなどを利用し活用するように務めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にも退所時にも文書の確認と共に充分に説明できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や運営推進会議でのアンケート調査や相談窓口、当施設ホームページのお問い合わせにて意見を気軽に提出できるように務めている。日々の記録に特記事項として残し、会議で検討し対応するようにしている。	利用者や家族等のちょっとした言葉にも耳を傾け、記録に残し、検討をする体制が取られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議も申し送りも含め、職員が自由に発言できる様に職員中心で進めていくものとして意見交換の場を設けている。	日々の業務の中や会議等で、言いやすい雰囲気を作られており、代表に伝わる体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件の導入を行い、皆が目標を持てるように、また、業務分掌とは別に個々に合わせた業務を与え意欲を持てるよう配慮をしている。その他に職員が業務内容を話し合い、お互いに環境を整えられるように務めている。また、公休と合わせ特別休暇も皆で自由に取れるように支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の施設内研修の他、月別目標と称して、自己評価内容を参考に一人ひとりの意見を文書で出し合い意見交換し、ケアに対しての標準化とスキルアップに繋がるようにしている。また、研修費なども交付できるようになり、施設外での研修に参加してスキルアップ出来るよう手助けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加する事で、今まで以上にネットワークを作ることができている。職員同士の意見交換や、施設見学なども実施して勉強させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される以前から情報として本人に対し、聞き取り調査を行い、また、入所生活の中で小さな事でも聞き入れ、要望や悩みに柔軟に対応できるよう常に会議や申し送り、その他の話し合いや報告をしながら職員間で対応を統一し、関係が良くなるように優しい声掛けで対応している。在宅復帰をサポートさせて頂いたケースも有ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される以前から家族に対しても、聞き取り調査を行い、また、入所生活の中で取り入れたいサービスや悩みに対しても、対応できるよう常に会議や申し送り、その他の話し合いや報告をしながら職員間で対応を統一し、関係が良くなるように優しい声掛けで対応している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が共に暮らす者として、日々の日課を出来る限り一緒に過ごせるように業務上で分担し、また、本人の主体性を大切に、調理や園芸、掃除、洗濯物の分担等をさりげなくサポートしたり協力し合えるようにしている。その他に良き相談者となるように何事も傾聴する姿勢で対応するようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始時より認知症のケアとして家族の協力が大切だということを常に家族へ伝えている。帰宅要求のある時は付き添いで外出や外泊の出来る様に協力して頂いたり、本人が家族に連絡を取りたい時は自由に電話を掛けられるように、家族から承諾も得て絆を大切に配慮ができています。今後考えられる事として、頻りに面会や外出を希望される方や、買い物の希望がある場合やその他の状況があるが、ご家族に協力して頂ける様に常日頃の状況報告を交えて相談しており、協力して頂ける関係を保っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前から通っていた美容院やお店などにも通っていただけるように支援している。仲の良い友達にも会えるように、家族の付き添いの協力の下で、同窓会への出席もする方も支援出来ている。その他にも希望に沿って出来る限り協力できるようにこれからもしていきたい。	友人や親せきの面会や電話、手紙等の他、家族の協力を得ての帰省や外出、墓参り、買い物等の支援、理髪店利用による馴染みの方との会話、楽しみ等、他者への配慮も行われた、関係性の継続支援が行われています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの生活の中で、利用者同士が共に暮らす者として協力し合えるように日々の日課の作業や余暇活動を通して、より良い関係を築けるよう集まる時間を作っている。また、それらがお互いの出来る事を確認し合う場となる様に配慮し、個人に合ったレベルで助け合いが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に復帰された方もいらっしゃるの、サポートして頂いた支援センターに状況を確認したり、しばらくの間、家族に状況を聞き取りしてアドバイスしたりと実際に行ったケースも有る。今後の退所者に対しても支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の一人ひとりの訴えを汲み取り、ケア記録に残して申し送りや会議で取り上げ、把握するよう努めている。同じような訴えやその場で解決してしまった事なども細かく記録出来ているので、今後も取り組んで行きたい。	日々の生活の中で、それぞれの思いや意向が言い易いように、場所に工夫する等の配慮をされています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期に聞き入れた生活歴や趣味なども含めた情報に対し常に新しいものを取り入れ更新できるように、日々の会話や訴えに対し傾聴するようにしている。また、それを職員全員が把握出来るに会議や申し送りなどの場で情報交換に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活の中で行動や訴えなどを把握しているつもりだが、有する力と共にまだ把握しきれていない部分もある。日課や余暇活動などの作業や、訴えの内容を把握し、また、生活シートを活用するなどして、不足点を解消し、対応していきたい。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議内のモニタリングを通して、常に職員全員で話し合う他に居室担当者、計画作成、管理者とのモニタリングを行い作成しているが、本人からの要望がなかなか聞き取れずにいる。認知知症状として聞き取れないところもあるので家族の意見や、介護者の代弁するような内容に限られてきているのが現状。本人・家族の意見があまり無い場合も、常に相手の立場になり、本人の意見に近い代弁を出来るようにしていきたい。	利用者からは日々の生活の中で、家族へは利用者状況を伝え、意見や要望を伺い、担当をはじめとする職員間で情報交換が行われ、状況・状態に応じた介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議録や月別個別目標と涉した記録にもあるが、個人に対する問題点や対応していることを意見交換し共有している。それらを実践した情報も介護計画に取り入れるようにしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	殆ど資源活用されることの無いケースも有るが、公共施設、お店、知人や家族も含み、その個人が生きてきた土地の風習や言葉、行事、歌などを通しその人の当たり前な暮らしが出来る様に支援出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前にかかりつけであった病院も本人と家族に確認し、継続受診できるようにしている。また、新たに受診したい病院があればその相談にも応じている。	希望のかかりつけ医が継続利用でき、職員の付き添いのもと、受診をされています。また、結果については家族に報告され、情報を共有されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護サービスとの契約に伴い医療ケア加算を受け、今まで以上に協力医療機関、看護師との連携の下で適切な医療を提供できている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は本人と家族の不安を解消するため、相談を常に聞き入れ、また、付き添いができない、生活用品が運べないなどの相談に対し、お手伝いが出来るように対応している。入院中も早期の退院になる様に医療機関と情報交換し、長期に及んだ場合も認知症の進行により職員の顔を忘れないように入れ替わりで面会したりと、安心していただけるようにしている。また、退院して再入所してからも変わらずに対応できるように配慮している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示も含め、早い段階から家族にも十分に説明している。重度化による医療体制として、現在協力して頂いている医療機関の他に、それに対して完全に往診して頂ける医療機関との契約がされ、重度化に伴う対応が出来る様になっている。運営推進会議内でも取り上げ、緊急時の対応として取り上げているのもあり、常に地域包括支援センターなど他機関にもアドバイスを頂けるように配慮している。	「重度化における(看取り)指針」を作成され、契約時に説明をし、段階を経ての状況に応じた家族説明や意向の確認も都度行う仕組みができています。また、職員研修が行われている他、看護師の配置により、職員に対するメンタル面への支援も期待されます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの下で周知する事が出来ている。実践訓練としてのAED操作の訓練も実施しているが、実施回数を増やしより確実な対応が出来るようにしていきたい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも取り上げているが、実際に地域の方々に協力して頂くことは難しい部分もある。しかし、町内の避難場所が隣接しており、3.11の震災時には実際に食料・ガソリンなどの配給の協力や相談など、お互いに通いながら行い、対応できた実績があるので、地域の方々には、このような協力でよければ協力できる、といった旨を伝えられている。	様々な場面を想定しての夜間発生時の訓練が行われており、都度、反省点を活かし、次に繋げています。	日頃より、避難口や避難路、場所の確保に十分に配慮されることの他、近隣の方々に具体的な役割を提示され、協力依頼する等、地域との協力体制の在り方に工夫される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新任研修でもその後の会議や月別個人目標にも取り上げ、重視して対応させていただいている。	失礼にあたらないような声掛けの仕方に心がけ、生活歴や人格を尊重し、プライドを損ねないように配慮しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定して頂くため、その人の好きなことやしたいことを予め把握し、決められるまで待つようにしている。また、希望、決定が言いやすいよう、しやすいように食事メニューや外出先、余暇活動の内容なども含め、物事に選択肢を幅広く持つよう配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様には、例えば買物に行く日をこちらで指定したり、行事予定を張り出し事前に把握して頂いた上で生活をしている、など、やむを得ずこちらのペースになっていることもある。だが、その日の行動を制限することはなるべくしないよう配慮している。また、希望があれば直ぐに職員同士で話し合い、出来る限り実現できるようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があるケースでは、化粧品やドライヤーなどの備品購入から、美容院通いまで支援出来ている。また、上手くできない方でも性別にあわせた身だしなみが出来るように本人に都度聞きながら対応し、毎朝その一日に活気が出るように配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れるなど食事メニューを工夫し、利用者様の意見を聞きながら、好きな人、仲が良い人の並びを考えた席順にしたり、行事ごとに飾り付けやテーブル位置を変えたり等の配慮をしている。また、調理に関しても出来る事はして頂きながら、さりげないサポートをしつつスムーズに調理でき楽しんで頂けるように配慮している。	季節感が分かるように食材に取り入れ、バーベキューや時節に応じた行事食、食べたい物を取り入れたメニュー等で、楽しみを持って食事ができるように工夫されています。また、食材の下ごしらえや下膳、食器拭き等、出来る方にはお手伝いをいただき、事業所の一員として活躍いただいております。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会の中で定期的に検討会議を経て対応させて頂いている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔を保持するため、往診による歯科医の治療とアドバイスの下で対応し、チェック用紙に記入しながら毎日の口腔ケアの確認をして清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その個人に合わせて、オムツはなるべく使わない方針で、排泄の時間帯をチェックしその方のペースを守り排泄できるようにしている。また、密な様子観察をすることで、便意、尿意のある様子を把握してトイレ誘導出来るようにしている。トイレの場所も分かりやすいように手作りの表示をしたり、なるべく一人で出来るように配慮している。	日中は、個々の状態に応じた排泄誘導が行われ、夜間でも睡眠を妨げないように配慮しつつ、誘導が行われています。また、認知症によって、トイレで排泄する認識の無い方でも定時に誘導することによって排泄に結び付いている方もおります。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方や排尿障害のある方などには医師の指示を仰ぎ、適切な下剤、利尿剤等の調節をして頂いている。また、訪問の看護師に状態を報告し都度確認している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日の入浴サービスを基本としていると共に、その日の夕方16時以降から翌日9時までの時間以外はいつでも入浴できるようにしている。あまり入りたがらない方には、清潔な生活をして頂くためローテーションを組み、本人の希望も聞きつつ対応している。	2日置きの入浴の他、希望者には随時の入浴が行われています。入りたがらない方には、タイミングを観て声掛けが行われ、入浴していただいております。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ希望される場合も、いつでも対応している。その他に声掛けにて本人の体力を配慮し、適度な休息をして頂いている。また、今まで使用していた寝具を使用頂き、見守りもしながら安心して眠れるように配慮している。眠れない方には医師の指示を仰ぎ対応させて頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努め	医師の指示も含め、自分たちで服薬内容を確認するための勉強会を開き、新しい薬に対しても調べて皆で把握するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担した日課を持って頂き、活気のある生活になるように努めている。食事メニューを工夫し、利用者の意見を聞きながら作るようにし、喜びがある食事に配慮している。また、買い物と一緒に掛付け食べたい物を聞きながら買い物している。食事も含め、余暇活動、行事なども利用者の誰かに合わせたものとなるように生活歴や趣味などにも配慮し対応している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い家族の協力も有り、同窓会の参加や買い物、温泉、劇場、公園、外食、外出、外泊など制限が殆ど無く出掛ける支援ができています。	冬場は難しいのですが、散歩や畑作り、日光浴等の他、月に2回は外出できるように取り組まれています。また、希望に応じ、家族の協力を得ての外出や事業所での対応もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金はしていないが、状態を報告し把握して頂いた上で本人にご家族が手渡しのお金を使う自由を許している方もいる。その他の方には立替払いをし、ホームの現金を使っているが、清算は職員が行っており、店内で程度を決め、現金を渡し本人が精算をする支援は現在出来ていない。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話することができることを基本とし、手紙のやり取りも自由に出来るように、出来ない方でも年賀状などの手助けをしながら支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険箇所の除去を徹底し、ホールには好きな本や、ぬいぐるみ等を配置して好ましい空間作りの工夫をしている。台所や浴室、トイレについては安全と清潔を重視し配慮している。その他も含め玄関等には花を飾るなどの季節に合わせた配慮し、全体を通して居心地の良い空間作りに努めている。	季節感あふれる壁面作り、植物、ゲームを伴う装飾の工夫、個々の状態や関係性に考慮したテーブル配置、小上がりの畳スペース、食材の刻む音、臭い等、生活感にもあふれ、居心地のよいスペースを作り出しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはいつでも利用できる様に自分の場所が有り、仲の良い人同士で話しこめる席順を考えて配置している。一人になりたい時や少し休みたい時のために小上がりの座敷も利用できる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具全てを本人が使っていた物、家族が選んだ物を自由に配置して好みの部屋を作って頂いている。また、模様替えの希望も本人の希望を叶えられている。安全面を重視し配置の変更をしなければいけない時などは必ず相談の上行っている。	利用者や家族との話し合いのもと、ベッド、絨毯、テーブル、椅子、テレビ、使い込まれた筆筒、愛読書、遺影、家族写真、鉢植え、身の回りの必需品等々が個々の希望によって持ち込まれ、それぞれが居心地良く過ごせるように工夫されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を工夫したり、自分の部屋が分かるように工夫したり、安全に行動出来る様に危険箇所の把握と除去に努め、見守りとさりげない援助をしながら出来るだけ一人で行動できるように配慮している。		